

# 平成18年度 第5回 甲賀市議会定例会

第5回甲賀市議会定例会が8月30日から9月26日までの日程で開催されました。  
審議・可決された主な議案は次のとおりです。

## 平成17年度 決算

2～5ページに掲載。

## 平成18年度 補正予算

- ・ 甲賀市一般会計補正予算（第4号）
- ・ 甲賀市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
- ・ 甲賀市老人保健医療特別会計補正予算（第1号）
- ・ 甲賀市介護保険特別会計補正予算（第1号）
- ・ 甲賀市公共下水道事業特別会計補正予算（第1号）
- ・ 甲賀市農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）
- ・ 甲賀市土地取得事業特別会計補正予算（第1号）
- ・ 野洲川基幹水利施設管理事業特別会計補正予算（第1号）
- ・ 甲賀市鉄道経営安定対策基金特別会計補正予算（第1号）
- ・ 甲賀市国民健康保険診療所特別会計補正予算（第1号）
- ・ 甲賀市水道事業会計補正予算（第2号）

## 条例の制定

- ・ 甲賀市国民健康保険条例の一部を改正する条例

## 委員の選任（敬称略）

甲賀市公平委員会委員

山下 孝司（甲賀町）

任期H18・12・1～H22・11・30

人権擁護委員

伊室 信子（甲南町）

任期H19・1・1～H22・12・31

## 字の区域及び名称の変更

県営経営体育成基盤整備事業として行われている水口町柏木地区の酒人・宇田・植・泉工区のは場整備事業に伴う換地処分により字の区域及び名称の変更

## 市道路線の廃止・認定

土山町鮎河地先の赤渕線及び甲南町寺庄地先の住吉線の2路線を廃止し、土山町大河原地先の大河原・北垣外線、同町鮎川地先の鮎河・モタレ線及び甲南町地先の寺庄・下川原線の3路線を市道として認定します。

# 決算審査報告

監査委員 相川 良和・中島 茂

平成17年度決算は合併後初めての通年決算となり、一般会計の単年度実質収支額は98,693,054円の黒字決算となっています。財政運営を普通会計の財務指標でみると、平成17年度の財政力指数は0.714で前年度より0.029ポイントと若干上昇していますが実質収支比率は5.1%であり、経常収支比率においても94.7%、公債費比率15.3%と財政状況は厳しいものといえます。また、国の三位一体改革及び県の財政構造改革プログラムの推進により、今後一層の厳しい財政環境が予測されます。しかし一方では、都市基盤整備を始め、各種扶助費の増大など福祉諸施策等での財政需要が増大しており、平成18年度にスタートする甲賀市総合計画や各種の計画は住民ニーズに対応したまちづくりを目指すうえで、より多様化した財政需要の発生も見込まれます。このような中で、今後の財政運営にあたっては、市税収入を始めとした財源の確保に積極的に努められることは勿論、今まで以上に徹底した事務事業の見直しによる経費の節減などにより、限られた財源の重点配分に努めるとともに、市民サービスの向上と市民福祉を増進し、活気あふれるまちづくりに寄与されるよう望みます。

病院事業決算は、信楽中央病院の当年度純利益

29,083,282円に対し、水口市民病院では、178,097,671円の当年度純損失となっています。収益悪化は常勤医師の欠員が主な要因と推察されますが、より現実的で抜本的な経営改革と併せ水口市民病院の位置づけを明確にしたうえで、病院運営の方針を決定される事を望みます。

甲賀市水道事業の損益計算書では、881,326,889円の当年度純損失を生じていますが、固定資産台帳を整備したことによる特別損失として875,502,195円を計上したためです。今後も安定した水道事業経営のための対応策、また近い将来の施設整備を踏まえた経営基盤の強化に一層の努力を望みます。

景気の緩やかな回復基調はあるものの、雇用状況での所得環境など税料金を取り巻く情勢はまだまだ厳しいものがあります。しかし、負担の公平性の観点からも徴収率の向上と収入未済額の解消に向けて厳正に対処されるよう願います。

以上、平成17年度予算に対して適正に執行されており、計数も関係諸帳簿等と照合した結果、本決算は正当として認めました。

問い合わせ 監査委員事務局  
☎65-0656 FAX 63-4577